

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 6 年 6 月 14 日現在

機関番号：32618

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2019～2023

課題番号：19K00400

研究課題名（和文）19世紀アメリカにおける健康改革運動と文学作品の相補的関連性についての研究

研究課題名（英文）On the Relation between Health Reform Movement and Literary Works in 19th-Century America

研究代表者

稲垣 伸一（INAGAKI, Shinichi）

実践女子大学・文学部・教授

研究者番号：00269599

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 1,300,000円

研究成果の概要（和文）：19世紀アメリカ社会において主張された医学の分野における健康改革がキリスト教信仰復興運動と偉大な共和制国家実現の夢と関連性を持ち、その関連性は同時代の文学作品に認められることを明らかにした。健康改革の要素として服装改革、菜食主義、水治療について考察し、それらがキリスト教信仰復興運動「第二の覚醒」に影響を受けていること、同時代に黎明期を迎えた女性解放思想とも密接に関係していることがわかった。この相互関連性を、主にMary Gove Nicholsの文章から、また同時代の作家Nathaniel Hawthorne、それ以後の時代との比較としてHenry Jamesの作品から読み取ることができた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

19世紀前半から半ばにおけるアメリカ合衆国において、偉大な共和制国家建設という社会的願望とキリスト教信仰復興運動という宗教的事象との関係を時代背景として、健康改革運動という医学における改革思想と、女性解放思想という社会改革思想との関連性を明らかにできたことが本研究課題の成果である。そして社会・宗教・医学・文学の相互関連性を指摘したことに意義がある。また、日本ではもちろん、英語圏においてもほとんど研究が進んでいない水治療実践者で作家でもあったMary Gove Nicholsの思想や作品の分析を進めることができたことも学術的意義を持つ成果の1つと見なすことができる。

研究成果の概要（英文）：In this research project, it was elucidated that the Health Reform advocated in the field of medicine in 19th century America was related to the Christian revivalism and the dream of realizing a great republican nation and that this connection could be read in contemporary literary works.

Elements of the Health Reform such as dress reform, vegetarianism, and hydrotherapy were found to be influenced by the “Second Great Awakening,” and to be closely related to the burgeoning women's liberation movement at that time. I found the interrelation particularly in the writings of Mary Gove Nichols, as well as in literary works by Nathaniel Hawthorne, an antebellum writer, and Henry James, a postbellum one.

研究分野：アメリカ文学

キーワード：キリスト教 健康改革 女性解放運動 服装改革 菜食主義 水治療 フリー・ラヴ スピリチュアリズム

1. 研究開始当初の背景

本研究課題の着想を得る以前、19世紀アメリカにおいて社会改革を目指した当時の思想として、ユートピア思想の一つでありフランスから輸入されたフーリエ主義 (Fourierism) 19世紀半ばより流行し今では疑似科学に分類されるスピリチュアリズム (心霊主義、Spiritualism) これら2つの思想やそれに影響を受けた運動を取り上げ、その言説を同時代の文学作品から読み取る研究を進めてきた。その中でフーリエ主義を始めとする複数のユートピア思想とスピリチュアリズムが「科学」を標榜することにより自らの思想の正当性を主張したという共通点を見いだした。こうした研究の中で知ったのが、フーリエ主義やスピリチュアリズムと同様、科学を標榜し社会改革を目指した当時の健康改革運動 (Health Reform) である。これは当時権威を持っていた医者たちが実施する瀉血や水銀投与など、患者の苦痛を伴う医術に対して示された複数の代替的な医療の普及を目指した運動の総称である。具体的には健康改革運動の要素として同毒療法、薬草療法、菜食主義などが挙げられ、それに並ぶ要素が水治療 (hydropathy/water-cure) だった。これまで進めてきたユートピア思想やスピリチュアリズム同様、当時権威を持った (ほとんどが男性の) 医師が行う医療行為に異を唱え、人々の健康増進を目指す健康改革運動は、単に医学にとどまらない社会改革の要素も含んでおり、この運動には、人々が健全な身体を持つことが健全な国家建設につながるという社会的側面と、健康であることはキリスト再臨を待つ者の義務であるという千年王国信仰を基盤とする宗教的側面があったことを知るに至った。

そこで以下のような本研究課題の着想を得た。その着想とは、社会的・宗教的側面から健康改革運動の言説を19世紀当時書かれた一次資料から改めて分析し、同時代である19世紀に発表された小説にも通底する言説を複数の作品から読み取ることにより、健康改革運動と文学との間に相互の関連性を読み取ることである。

2. 研究の目的

本研究課題の目的は以下の3つである。

- (1) 偉大な共和制国家実現と至福千年王国の到来という国家主義的・宗教的願望 (信条) がいかに健康改革運動のレトリックに入り込んだかを改革実践者の残した一次資料から探る。
健康改革運動にとって、その背景にあったと考えられるこれら二つの願望・信条は、健康の増進という目的の先にあるさらに大きな目標と考えられ、その大目標が運動を推進させる要因でもあったと考えられる。菜食主義や水治療といった健康改革運動の個々の事例について研究は既にいくつもなされているが、この二つの願望・信条と健康改革という大きな一つの運動との関連については、まだ十分に研究されているとは言えない。そこで健康改革の理論家や実践者が残した文章を、国家主義的そして宗教的願望・信条という点から分析する。
- (2) 国家主義的・宗教的願望と健康改革との関係を文学作品から検証する。
健康改革運動が流行した19世紀前半から半ばにかけての時代は、短命化の時代 (厳密に言えばそれ以前の1790年代から19世紀半ばにかけての時代) であり、アメリカ合衆国史上唯一、国民の平均寿命が前の時代より短くなった時代だった。このことを反映して、同時代の文学作品の中でも盛んに「病氣」あるいは「死」がしばしば描写される。日常で起こった病氣と死、とりわけ子供の死が、健全な国家建設や至福千年王国の実現といった夢へと人々を向かわせる1つの動因となったと考えることができる。そして死が日常的な出来事だったからこそ人々の健康の重要性を訴えるという意味で、文学作品が健康改革運動と相補的に改革のレトリックを反復していたと考えられる。こうした健康改革運動と文学に通底するレトリックを読み取る。
- (3) 健康改革運動と文学を結ぶ水治療の推進者 Mary Gove Nichols の言説を分析する。
上述した本研究(1)と(2)の研究内容、つまり健康改革運動と文学を直接的に繋ぐと考えられるのが、健康改革運動の中でも水治療の分野で活躍したアリー・ゴーヴ・ニコルズである。ニコルズは健康改革や水治療についての研究書でたびたび言及されているものの、彼女に特化した研究書としては管見によれば Jean L. Silber-Isenstadt, *Shameless* しか存在せず、ニコルズは研究対象として単独ではほとんど扱われてこなかった。本研究ではニコルズの健康改革思想を彼女の自伝的小説や他の文章の分析により明らかにする。

以上、3つの目的を達成することにより、「19世紀アメリカにおける健康改革運動と文学作品の相補的関連性」を明らかにすることが本研究課題申請当初の大きな目的だった。

3. 研究の方法

(1) 一次資料の収集・分析

健康改革運動が内包していた国家主義的・宗教的願望を先行研究によって整理した上で、19世紀アメリカにおいて同運動を推進した菜食主義、水治療などの実践者たちが残した文書を収集し、既に収集済みの文献も含めそれら一次資料を対象として、国家主義的・宗教的言

説を抽出して健康改革運動推進のためのレトリックを分析した。

資料の収集については2019年にAmerican Antiquarian Society (Worcester, MA)、Syracuse UniversityのBird Library (Syracuse, NY)、New York Public Library (New York, NY)を訪問し、Mary Gove Nichols、Catharine Beecher、John Harvey Kelloggなどの残した菜食主義 (vegetarianism)、服装改革 (dress reform)、若者の性と健康に関する文章等を収集した。また、2023年にはTulane University (New Orleans, LA)、University of California, Berkeley (Berkeley, CA)の図書館を訪問し、19世紀のアメリカ南部における伝染病流行、西部における (健康問題を含む) 女性運動等の資料を収集した。

新たに収集したこれら一次資料と、すでに収集済みだった水治療普及を目的として刊行された雑誌 *The Watercure Journal* などの読解・分析にあたった。

(2) 文学作品の分析

同時代の文学作品を対象として、そこに描かれる「病気」や「死」についての記述を抽出・分析することにより、健康改革運動と通底して「健康」に向かおうとするレトリックについて分析・考察した。例えば、健康改革運動と同時代に発表された小説として、Nathaniel Hawthorne の *The House of the Seven Gables* (1851) や *The Blithedale Romans* (1852) では、日当たりの悪い屋敷に住む病弱を思わせる女性登場人物が描かれる。また、南北戦争後 20 余年が経過して発表された Henry James, *The Bostonians* (1886) では、霊媒である女性主人公がひ弱なイメージで父親との父権的關係が描かれ、健康の問題と同時にステレオタイプの女性像も前景化される。これらの作品から健康改革と関連したジェンダーの問題を考察した。

(3) Mary Gove Nichols の著作分析

上記の作業で明らかになる健康改革運動と文学の相補性を、両方の領域に深く関わったメアリー・ゴヴ・ニコルズの著作物により検証した。対象となる文献は *The Watercure Journal* にニコルズが寄稿した記事、若者の過剰な性の問題と健康への害を論じた *Solitary Vice: An Address to Parents and Those Who Have the Care of Children* (1839)、そして自伝的小説 *Mary Lyndon* (1855) 等である。ニコルズという改革者の残した健康改革に関する文章や文学作品からは、健康改革運動と文学作品との相補性はもちろんのこと、健康から社会 (あるいは国家) そして宗教にまでおよぶ改革思想の展望が明らかになった。

4. 研究成果

(1) 服装改革と女性解放思想との関係、イギリスおよび日本における女子教育との接続

「ブルーマー」という名の女性服は健康運動の一要素として水治療普及のための雑誌 *The Watercure Journal* でもイラスト入りでその効果を喧伝された (図 1)。ブルーマーを普及させた 19 世紀アメリカの服装改革の思想が、女性解放はもとより、同時代の健康改革の一分野である水治療の実践者たち、そして「複合結婚」で知られる生活共同体オナイダ・コミュニティでも共有されていたこと (図 2) が明らかとなった。

このことは論文「19 世紀アメリカの服装改革 - 健康増進と女性解放」(2020) によって指摘だけでなく、本務校で開催された公開シンポジウム「動く」女性 - 日英米の女子教育と服装改革の歴史」(2019) でもパネラーとして発表することにより、19 世紀アメリカにおける服装改革を同時代のイギリスそして日本における女子教育と関連づけることができた点は、本研究課題に着手した当初に期待していなかった成果だった。



図 1 ブルーマー (左) と伝統的女性の服装との比較 (*The Water-Cure Journal*, 1851 年 10 月号)



図 2 ブルーマーを着たオナイダ・コミュニティの女性たち

(2) 菜食主義、水治療、性とキリスト教信仰復興運動

論文「菜食主義から水治療へ - Sylvester Graham と Mary Gove Nichols にとっての健康、性、宗教」では、アメリカ合衆国において 1830 年代健康改革の分野で活躍したシルベスター・グラハムと、1840、50 年代水治療や急進的社会改革思想で知られたメアリー・ゴヴ・ニコルズとの思想的共通性を考察した。その結果、両者には健康改革の一要素である菜食主義だけでなく、過剰な性を病の原因とする点でも関連性が認められ、さらにその背景には「第二の覚醒」に影響を受けたと考えられるキリスト教信仰があることが明らかとなった。また、ニコルズについてはその思想を子供の親に向けた文章 *Solitary Vice* や自伝的小説 *Mary Lyndon* で検証した。

(3) 水治療とスピリチュアリズム、女性解放運動

水治療を健康改革運動の一要素として捉えるだけでなく、19 世紀半ば以降アメリカで流行したスピリチュアリズムとも関連づけながら、両者を女性解放思想の点から考察した。スピリチュアリズムがその進歩主義的世界観から同時期に黎明期を迎えた女性解放運動と共鳴する点を持ちながら、それとは相反するように、多数存在した女性霊媒が 19 世紀半ばから後半にかけてのステレオタイプの女性観から免れていなかったと考えられる。19 世紀におけるアメリカン・スピリチュアリズムが持っていたこの相矛盾する側面を、南北戦争以前に発表された Mary Gove Nichols, *Mary Lyndon* と、戦後に発表された William Dean Howells, *The Undiscovered Country* (1880)、Henry James, *The Bostonians* から考察した。

上記の考察は、日本アメリカ文学会東京支部において「19 世紀アメリカン・スピリチュアリズムと女性解放運動 - 進歩主義とジェンダーの軛」として発表し、19 世紀アメリカで起こった社会的事象を同時代文学をも視野に入れて考察することができた。また、その研究発表に追加・修正を施し、論文「スピリチュアリズムと女性解放運動 - 19 世紀アメリカにおける進歩主義とジェンダー」に成果をまとめた。

なお、これらの成果に加え、本研究課題で 19 世紀アメリカにおける健康改革運動について調査を進める中で、新たな問題として幼児・子供の死亡率の高さと死亡率を抑制しようとする社会的努力が 19 世紀アメリカで始まったことを知った。これは特に 19 世紀後半、移民の流入などにより都市の人口が急速に増加していく中で見られた現象で、健康改革運動とも関連して都市部における衛生の問題が関わってくる。本研究課題によって、このような子供に特化した健康の問題を知るに至ったことも、今後の研究につながる成果のひとつである。

[付記]

本研究課題は当初 3 年間 (2019-2021 年度) の研究計画で申請し採択された。しかし 2020 年度から 2021 年度にかけて Covid-19 流行の影響で、当初計画していたアメリカ合衆国での資料収集が実行できず、また本務校における日常業務として、想定していなかったオンデマンド授業等新しい形態の授業準備に時間を費やすこととなり、本研究課題の進捗はかなり滞った。そのため 2022 年度および 2023 年度研究期間の延長を申請し、延長が認められた結果、上記研究成果を残すことができた。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計3件（うち査読付論文 3件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 3件）

1. 著者名 稲垣伸一	4. 巻 74
2. 論文標題 菜食主義から水治療へ - Sylvester GrahamとMary Gove Nicholsにとっての健康、性、宗教	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 実践英文学	6. 最初と最後の頁 49-64
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.34388/1157.00002338	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 稲垣伸一	4. 巻 72
2. 論文標題 19世紀アメリカの服装改革 - 健康増進と女性解放	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 実践英文学	6. 最初と最後の頁 1-15
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.34388/1157.00002079	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 稲垣伸一	4. 巻 76
2. 論文標題 スピリチュアリズムと女性解放運動 19世紀アメリカにおける進歩主義とジェンダー	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 実践英文学	6. 最初と最後の頁 1~13
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.34388/0002000082	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計2件（うち招待講演 0件/うち国際学会 0件）

1. 発表者名 稲垣伸一
2. 発表標題 19世紀アメリカン・スピリチュアリズムと女性解放運動 進歩主義とジェンダーの軌
3. 学会等名 日本アメリカ文学会東京支部
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 稲垣伸一
2. 発表標題 19世紀アメリカの衣服改革 - 健康増進と女性解放
3. 学会等名 実践女子学園創立120周年記念 文学部英文学科公開講座
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------